

日 課 表

職員打合せ	8:20 ~ 8:25
児童・子鈴	8:25 ~ :
朝の会	8:30 ~ 8:40
1	8:45 ~ 9:30
2	9:35 ~ 10:20
休 け い	10:20 ~ 10:40
3	10:40 ~ 11:25
4	11:30 ~ 12:15
給 食	12:15 ~ 1:00
休 け い	1:00 ~ 1:25
清 掃	1:25 ~ 1:45
5	1:50 ~ 2:35
6	2:45 ~ 3:25
終わりの会	3:25 ~ 3:40
下 校	4:30 ~

43	42	41	番
薬剤師	眼科医	歯科医	職名
後藤 正至	恒川 短子	加藤 両助	氏 名
	1年	10年	勤続本 校年数
			担任 学級
			校務分掌

土	金	木	水	火	月	
	日	学級経営の 学年研修会	学年研修会	研究研修会		第一週
	日	学級経営の 学年研究会	学年研究会	低中高別研 究部会	学年主任会	第二週
	日	学級経営の 学年研究会	学年研究会	職員体育 (職員作業)	各種委員会	第三週
	日	学級経営の 学年研究会	学年研究会		行事・研修 委員会	第四週

定 例 行 事

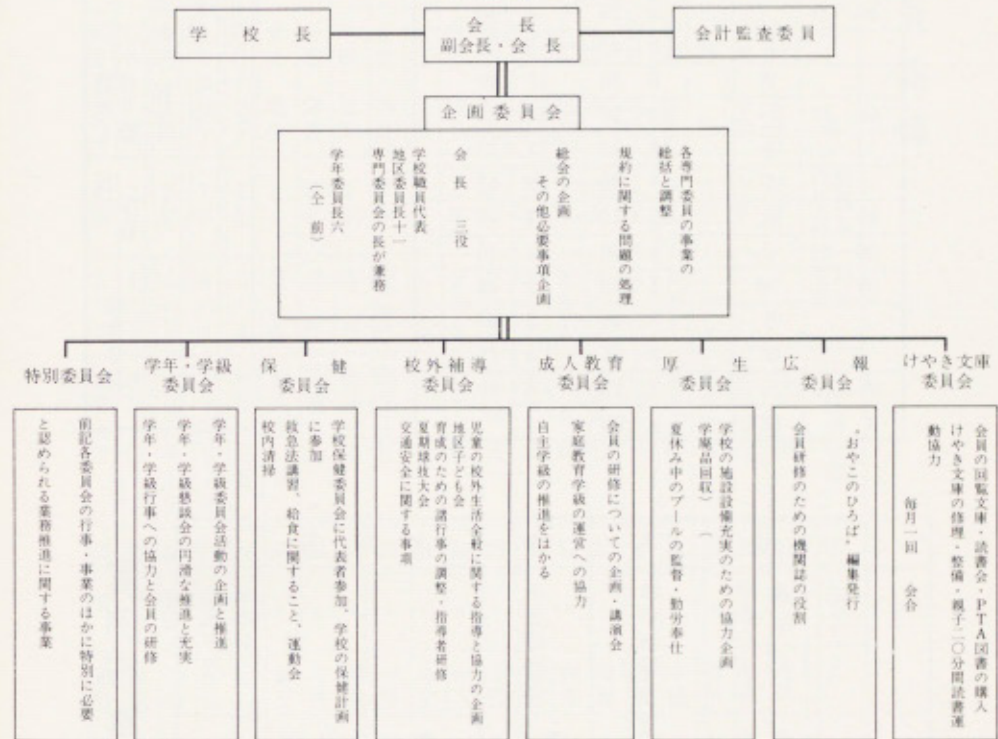
職 員 組 織

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	教諭	教頭	校長	職名	
浜田 博之	石井 博	左高 太郎	長谷川 基子	五島千恵子	永井 昭夫	石田 洋吉	竹内 耿介	金武 拙美	福井 皐	吉田 義幸	横山 邦夫	山本 郁子	小島 由市	小島 寿一	河村 英臣	広瀬 福恵	小野 巴	石田 幸彦	西垣 勇造	氏 名	
4年	2年	2年	7年	4年	2年	8年	1年	7年	1年	1年	1年	5年	5年	3年	1年	7年	6年	2年	2年	勤続本 校年数	
5の3	4の1	4の3	6の5	2の4	基本学級	専科	専科	基本学級	6の2	5の1	2の2	2の1	3の1	4の3	専科	3の4	1の5			担任 学級	
体育主任	統計主任	生徒指導主任	学年経営主任	厚生・児童	防災主任	校務主任	教務主任	備品主任	給食	学年主任	学級園	学年主任	視覚聴	道徳主任	教務主任	厚生主任	学年経営主任	統括補佐	統括	校務分掌	
40	39	38	37	36	35	34	33	22	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番	
校務員	校務員	事務職員	養護教諭	助教諭	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	教諭	職名
磯野 成光	阿部 すすゑ	砂畑 知子	矢島 節子	山口伊穂子	瀬上 裕	方井 良子	清水 隆子	伊神 栄子	外山 澤子	小川 滋子	勝野 淑代	藤吉 勝彦	白木 征雄	後藤 洋子	加藤美千代	永縄 久司	浦川 光恵	小島 史雄	坂井 哲子	氏 名	
		1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	1年	3年	3年	4年	3年	6年	2年	6年	1年	2年	2年	勤続本 校年数	
				1の4	3の2	4の4	3の5	6の4	6の4	5の2	4の2	1の2	6の1	1の3	2の5	6の3	5の4	2の3	1の1	担任 学級	
給食	防 災	宮 繕	舎内清掃	倉 庫	児童会計	児童図書会計主任	一般備品	クラブ主任	特別活動主任	舎外清掃	清掃主任	暖房主任	図書館主任	児童集合	清掃主任	暖房主任	図書館主任	児童集合	給食主任	校務分掌	

P T A 年 間 計 画

月	成人教育	校外補導	広 報	保 健	厚 生	け や き	学級・学年	特別委
4	計画立案 授業参観 統会							
5	地区子 ども会	おやこ ひろば No89		給食参観	廃品回収	同鑑図書準 備 希望図書調 査	活動方針	資料整理
6	授業参観 講習会	地区委員と 担当教師との 連絡会		パン) 工場 牛乳) 見学		図書購入	講演会 (成人と合 同)	録音会
7	授業参観	危険箇所点 検	No90	水難救助講 習	廃品回収 プール監視	定例会 (整理)	学年懇談会	資料収集 計画
8		ラジオ体操 球技大会			勤労奉仕 プール監視	読書会		編集協力 録音会
9	運動会参加	研修会	No91	運動会への 協力	廃品回収	研修会	運動会への 参加	資料収集
10		秋祭り指導		市民体育大 会の実施・ 協力		図書選定	個人懇談会	原稿整理
11	授業参観	連絡会	No92			図書購入		原稿整理
12		年末補導			廃品回収		学年懇談会	編集協力
1			No93			読書会		
2	授業参観							
3	授業参観・ 総会	地区子ども 会	No94	反省会	反省会	反省会	反省会	

PTA機構一覧



予 算

●収入

項 目	本年度予算	摘 要
総 越 金	57,494	
会 費	816,000	80×850×12
利 息	2,500	
雑 収 入	0	
合 計	875,994	

●支出

項 目	本年度予算	摘 要	
会議費	総 会 費	6,000	総会会場盛花代会会場盛花代
	役 員 会	5,000	役員会茶菓代役員会茶菓代
事務費	消 耗 費	6,000	用紙・原紙・台帳・ゴム印など
	印 刷 費	10,000	封筒・その他
	通 信 費	15,000	切手・電話料
旅 費	旅 費	5,000	県市役員会研修旅費
	成 人	15,000	講師謝礼金・車代・会場盛花等
委 員 費	校 外	9,000	保険料・球技大会等
	広 報	45,000	おやこのひろば代
	け や き	80,000	けやき文庫購入代
	保 健	45,000	給食試食・見学・球技大会等
	厚 生	15,000	奉仕作業飲物・パン代等
	学 年・学 級	31,000	
	特 別 委	20,000	活動費・事務費等
	ク ラ ブ	40,000	活動費補助
	研 究 調 査	45,000	会員研究調査費補助
	補 助 金	卒 業 記 念 品 費	68,000
分 担 金	市 P 連	24,000	21×1,145
	鶴 地 P 連	15,000	負担金
	特 殊 学 級	10,000	負担・奨励金
	学 校 安 全	68,000	60×1,145
雑 費	雑 費	20,000	
慰 労 費	慰 労 金	30,000	銭別・記念品代
慶 弔 費	慶 弔 費	8,000	香典・見舞金等
子 備 費	子 備 費	5,999	
振 興 費	環 境 整 備 費	100,000	学校環境整備費
	行 事 協 力 費	30,000	諸行事協力補助金
合 計	875,994		

現職員座談会

【司会者】 河村 英臣 竹内 耿介
【出席者】 在職々員全員

司会 戦後の混乱期も終わり、学校教育も一段と落ち着いた昭和四十年頃からの先生方の歩み、印象深かったことを中心にお話を進めて参りたいと思います。

まず、石田先生からどうぞ。

石田 私が赴任した四十一年頃は、学校周辺は草がぼうぼうと生い茂っていて、その中に平屋や二階の校舎が幾棟も建っていました。

金武 そうだったなあー。今の交通コーナーの辺りは、全くの草原だった。

瀬ノ上 そうすると、今とは随分違っていたんですね。

金武 その通り。雲泥の差でも形容したいです。

山口 私は今年初めて先生になり、鶴一小勤務と聞いて、どんな学校かな、と考えながら日曜日に下見に来たことがあります。その時の印象は、新旧のアンバランスです。立派な鉄筋校舎があるかと思えば、出入口さえ解らない職員室、変な気持ちでした。

伊神 私もやっぱり、同じような印象を受けました。大学時代、電車の窓から古い校舎があるなあーと思いつ

つ通っていました。まさか、この学校にお世話になるなと思ってもいなかったのですが……。

広瀬 稲羽の西小学校から転勤して来て、隣間だらけの校舎、集金するとお金がコロコロとこぼれて床穴に落ちてしまふんです。磁石を持って来て釣りあげたものです。確かに校舎はオンボロですね。でも、やがて取りこわされてしまうと思うと、ちょっと惜しい気がします。

横山 校舎と言えば、今の新館の辺りに、小学校と並んで鶴沼中学校の校舎があり、中学校が現在の位置へ移転してからは、工専がその校舎を使っていたことがあったなあー。

広瀬 そう言えば、工専の記念樹もあったね。

金武 工専跡の校舎や記念樹には、鳩がたくさん住みついてたね。鳩がふんを落して仕方がないので、時折軒の穴をふさいだ記憶が残っていますよ。

山本 そう言えば、ヘビが天井裏からおりてきて、びっくりしたことがあったわ。本当にあの頃はオンボロ校舎でしたね。しかし、今から思えばあのオンボロ校舎にも多くの夢がありましたね。子どもたちの生活、研究会、諸行事などを通して……。

浦川 三十九年の図書館の発表会の時に、私も参加させていただきましたが、教室はオンボロでもとてもきれいにそうじが出来ていたのでびっくりしました。先程話題になっていた草原には、白つめ草がいっぱい咲いてい

ました。遊んでいた一年の子たちと沢山積みとったわ。図書館は素晴らしくきれいで、本も沢山ありすてきに思いました。でも、今は建築中であんな隅っこにぎゅうぎゅうづめでどうにもならない現状です。

司会 話題が教育の内容へと変わってきましたが、図書館や読書指導の面について話してください。

長谷川 あの図書館の移転は(四十四年度)涙をのんでやったのよ。教室が足りなくてどうしてもということ、あの和室におしやってしまったのよ。もう書庫のつもりでね。しかし、何とか図書館らしくしたいと思い、棚の置き方に苦勞して現在のようなったのです。本の移しかえも大変でね。書架別にしないといけないし、分類別に順に並べなければならぬので、気をつかって移したのよ。子どもと共にね。でも図書館は小さくなってしまったけれど、読書はよくしてくれていて、いつも満員で嬉しかったわ。今は新校舎からちょっと遠くなってだけだね。

司会 新しい図書館が出来あがった時点で、当時のような活発な読書指導を再現したいですね。鶴一小の宝である交通コーナーについてはどうでしょう。

小野 四十三年の夏ごろから、交通コーナー作ったね。突貫工事をやった、一ノ宮・大垣の先進校へ見に行ったね。

永縄 廊下のセンターラインを書いた。標識もつくった。

いた矢先に死んでしまった。水死体を捜しに行ったのです。金武先生がみつけれられた。二人とも手をひろげていた。下へずつと沈んでいて、まだ生きているとおりました。山本 あの都築紡績の金網の破れた所から入っていった。

小野 あの事故だけは一生がい忘れられない。

司会 このグループは、新しくこの学校に転任してこられた先生が多いように思いますが、本校に赴任しての感想を聞かせてください。

吉田 先輩がとても苦勞し、努力されたと聞いて敬服しています。そうしたものが、愛校心につながり、その証拠に子どもの作文をみると誇りとしてもてるものに、交通コーナー、図書館がある。シンボルのけやき、これがあるということがこの学校の誇れる所だ、それが素晴らしいと思う。

横山 二回日本校に勤務するようになってやはり、思い出の木だね。あそこに棚があつて低学年はよく遊んだ。木が大きくなってびっくりしている、いかにもがさつに子どもがなっているね。印象が印象になっていない、新任あいさつでそれがピンときた。わずかの年数で変わった。

石井 上の運動場でよく体操し遊んだが、今は駐車場になっている。

た。追いつきの標識もつくった。自動車もつくたね。

広瀬 その時、長谷川先生がまっ先に授業なさったね。とびだし。を、全員が交通安全に一丸となったね。

石田 あの時に自転車点検、集団登下校もきまったね。交通コーナーの設計は金武先生や、PTAの本田さんが一生懸命なさった。

金武 そんなことはないPTAの人が一生懸命、日曜日も出て作業して下さった。その時、日時計を作ったよ。ほんとうにえらい、あの土台が少しもごかず大それとうした。水防のくいで一生懸命つくったね。

小野 フラワーブラボウコンクールに加入していたので、その頃一番花壇がきれいになっていた。みごとだった、三色スミレとデイジーがすてきであった。

石田 テレビ局が来てよく写していったね。四十四年に交通指導の写真が日曜版に出た。即ち四回出たね。テレビ放映もやった。めずらしかったね。

小野 おかげで私は教え子等から手紙をもらった。岐阜日日が、カラー写真をとり入れたところだったね。

石田 四十四年が実に盛んに表彰を受けたり、一生懸命やったりした。

司会 そのほか、特に思い出深いものは、山本 四十四年には、いいことも悪いこともあったね。上野と春日が川でおぼれて死んだ年ですね。

小野 九月一日。事故がなくてよかった。と言われて

方井 百年くらいたって、ゆいしょ正しい所で、いい学校と聞いてきた。校長先生が道路からへんな所へ入っていかれびっくりした。入ったら古くてびっくり、新しい校舎も立ってるよといわれほんとかと、またびっくり、砂畑 一年生の教室をみると、昔はこうだ(たんだなあ)。きりえを思い出すね、なつかしい郷愁をそそられます。

竹内 四十七年の夏に、古墳を坊主が調べるといふのでこの辺を歩いた。スタレが窓にかかっていた、西日があたる門の古い校章が印象的、それから農協とのコントラストが実におもしろかった。えらい古い学校が残っているな。こんな所に何人いるかとびっくりしたね。またハエの多いのにもびっくりした。校舎のボロさは別に苦にならないね。

坂井 今の資料館へ入りました。ガタガタ校舎を廻るのが大変だった。日直は恐かった。真っ暗で、手さぐりでほんとうに苦勞しました。

山本 だからキャンプで、御化け大会をやるにはもってこいだったね。

後藤 まだあの頃丸山には住宅がなく、桃の花がとももきれいでした。四十三年の五月に起工式だったね。四十四年の三学期頃に初めて子どもが来たね。

石井 中学から来て、一番小さい子を持たされた(二一年生)設備はないし、道具はないし、輪転機もないしは

んとにひどかったね。宿直はほんとに困りました。工事現場で額を釘でひっかけ、けがをした。子どもたちは鉄棒がうまいと思った。

司会 それでは、まだまだ話し合いたいことは尽きないようですが、Aグループの座談会は一応ここで閉じてBグループへとバトンタッチをします。恐らく重複した話題や内容もでてくるでしょうが、別の視点で話し合ってください。

司会者(河村) ここにお集りのみなさんは、昭和四十四年度から本校へこられた先生方です。昭和四十四年当時から現在に至るまでの本校教育の足あとや、児童のすがたなどをふり返って、話し合いをお願いしたいと思います。

小島(由) 昭和四十四年度から本校にいる者は私ひとりですが、あの当時は交通安全指導にとても力をいれましたね。昭和四十三年の十一月にrippな交通コーナーが完成されましたので、交通安全指導のかりキケラムも作成し、毎週かりキケラムにそってきちんと指導しました。それで一躍本校が有名になり、岐阜TV、NHKTV、名古屋TVなども来校しまして、録画をとり放映されました。各放送局から録画をとりに来るといので、学校の中ではだれの組を出演させるか。内容はどうするのかなど、もうてんやわんやでした。

当時は、毎月〳〵コーナーを使用して指導しました。

ろの校舎は古くて掃除の時間にとげがささったり、廊下を歩くと木造で古いので、足音がやかましく授業ができませんでした。教室もガタガタでした。とくに困ったのは、私の前の教室が裁縫室でした。ここがよく会合の場に使われたのですが、お医者さんが来てワクチンか何かうたれる時は、赤ん坊の声がかましく授業ができませんでした。

五島 私は四十五年度からおじやましていますが、当時私はPTAの「けやき文庫」の係に属していました。本校のPTAの読書サークル活動がとても盛んでしたよ。毎週土曜日にみなさんが集って、話し合いなどして見えました。

教頭 今、PTAのお話がでしたが、昭和四十四年の八月に本校のPTA活動が優秀だということで、文部大臣賞を受けています。交通コーナーを含めて学校環境についてもすい分骨をおられたようすを聞いています。

また、PTAの在り方についても着実な実践があったように思います。また、学校の方も図書館指導の充実、交通安全指導などの実践が認められ、この年の十一月に、「学研賞」受賞「健康優良校準第一位」になったのだと思います。

矢島 私は今年始めて養護教諭として第一歩を踏みだしたのですが、県保健大会が各務原市でもたれた関係から子ども体力について、いろいろ調査もしました。昭

勝野 私は昭和四十六年度からこの学校にいるのですが、この学校へかわってきた当時、交通コーナーのrippなのびっくりしました。なんか公園のような感じですね。交通安全指導にすい分力をいれられたそうですが、「全国有名校使覧」という本にもちゃんと鶴沼第一小学校の紹介が出ていますから、たいしたもんですね。

加藤 なん今年でも、全国から本校の交通安全指導について指導してほしいと、よその学校から先生方がずいぶん参観にこられましたね。

小島由 とにかく東海三県でいちばん良い交通コーナーだったんですね。県や文部省からも研究推進校として百五十万円ぐらいもらっています。それでお金をもらったからやらなければいかんというわけで、指導に力をいれました。

藤吉 私は昭和四十五年本校へ来ましたが、前からみえる先生は、ほんとに交通安全指導に熱心でしたね。私たちは教えてもらえばかりでしたが、たいへん勉強になりました。そのころは交通コーナーも今よりもっと美しかったですね。

小島(由) そのころは子どもの交通事故が多くて、年に五人ぐらいありましたね。はくの組でも一学期に一度、二、三学期にもそれぞれ一度ずつと、毎学期交通事故がでて困ったものでした。

浜田 私は昭和四十五年から本校にいますが、そのこ

和四十四年当時、体力づくりでどんな指導がなされていたのでしよう。

浜田 なわとび検定、鉄棒検定などがあって、通知票にも記入しました。始業前に先生も子どもたちといっしょに運動場へ出て運動もしました。

小島(由) そうです。なわとび運動、鉄棒運動が盛んでしたね。検定力ードというものがあって、先生方も朝早く出勤して子どもをみました。

司会 昭和四十四年、四十五年当時のようすでそのほかに、お話がありませんか。

藤吉 先程PTA活動が活発だと話されましたが、私も同じようなことを思いました。この学校へかわってきてびっくりしたことは、校長先生も教頭先生も校務員のおばさんもPTAのバレー練習がある時はみんなが出て練習をやるんですね。熱心でした。それも毎日というくらい、しかも夜遅くまでやるんですね。

みんなの気もちがひとつにまとまっていた。おかげで各務原市のPTAバレー試合に優勝したこともありました。今から思うとPTA活動としては、行き過ぎのような感じですね。

司会 では昭和四十六年にはいります。この年は現在建っている新校舎の東九教室ができた年度です。四十六年の八月に着工、四十七年の三月五日に完成しています。また四十六年十月に百周年記念事業委員会が発足しまし

た。

小島(由) 昭和四十五年にさかのぼりますが、校舎改築のことで……。改築を早急にしてもらうため、古い校舎のとくに古い所をさがして写真をとリ、武藤代議士などにも頼んで早くなおすよう運動しましたね。

小島(寿) 私は昭和四十六年度に本校へ赴任しましたが稲葉郡時代にも本校にいたことがありますので、二度めに来た時には、まだ古い校舎があるのか……。となつかしく思いました。稲葉郡時代のころ一年生を受けもったことがありましたが、研究授業で図画の指導をするとき校長先生にガラスに絵をかいて、いいかお願いしたら許可ができました。その校舎が今も残っているのですから、そりゃなつかしいですよ。

白木 私も四十六年に来ましたが、始めに思ったことは、やかましい学校だなあとということ、もうひとつはきかない学校だと思ったことです。私がかわってきて最初の挨拶の時怒ったんです。どういっておぞい学校、どういうきたない学校や……。というわけですね。今でもそうですが風が吹くと運動場などのほこりがひどく、床なども真っ白だったんです。もうひとつ感じたことは、PTAの人がよく学校へ出入りされることです。他の学校に比べるとたしかに多かったですし、古い校舎と同じように何か昔からの因習が残っているような気もしましたね。職員の中でもこのような考え方はありました。今までどおり

らないと教室らしさが出ないのです。雨もりにも困りました。それでバケツやらたらいで受けた覚えがあります。こうした環境でしたが、ひとつ感心させられたことがあります。小さな部屋ですが、図書室がきちんと整理され、子どもたちの図書館利用の仕方もととてもじょうずだったということですね。

白木 そのとおりでしたね。ぼくは三年生を受けもっていました。図書室の本の貸し出しの仕方など教えたことはなかったのです。ところが子どもたちは、みんなよく知っているのです。これには感心しましたね。もうひとつ交通安全指導が行き届いていたことです。交通コーナーの使い方とか、登下校の仕方などが小さい子にもよく浸透していましたね。ぼくはよく三年の子から教えられましたよ。教育の成果の一面ですね。

外山 私も昭和四十六年から本校にいるひとりですが校舎が古いお話でひとつ……。校舎内が暗いんです。電灯もひとつかふたつです。研究会があつて遅くなる手さぐりで職員室へ来た覚えがあります。掃除のこともうひとつ……。私は来た当時、白木先生と同学年でしたが、白木先生は自分から進んで腰板とか、床、廊下、便所などせつせと掃除されるんですね。それで私たちも日曜日に出動して教室の整備をしたことを思い出します。ねずみもいましたね。それでクニもわいたりして……。とにかく校舎のことで苦労はしましたね。

でやってゆけば良いという保守的な面が強かったですね。今とはずいぶん違っていました。

小島(寿) 前の話の続きですが、古い校舎であつただけにだれも教室に人がいない時と、子どもが教室にいる時とは感覚が違ふんですね。子どもが朝教室へ入ってくる。と何か古い教室が生き生きするといった感じでした。しかし今から思うと稲葉郡時代の鶴一の子どもは、今の子どもと違ってしゃべらなかつたですね。学校も真っ黒の広い畑の真ん中にボツンとありました。二度めにこの学校へ来てみると、子どもはよくしゃべるし、図画はうまいし、すっかり変わっていました。

小川 昭和四十六年にかわつてきましたが、私も校舎が古いことに驚きました。私は山の学校からこちらへ来ました。子どもに接したとき、鶴一の子が都市の子らしくない素直さがありいなあと思いました。そして子どもも全体がいっしょに集まつたとき、とてもやかましくなるんですね。なんかおちつきが無いという欠点も目に映りました。それが消えないでだんだんひどくなつてきていますね。考えなければいけないと思つてますよ。けやきの木のりっぱなことも意識の中に受けとめました。が、やはりこれが鶴一の子の象徴なのだなあと感じさせられました。

勝野 私も小島寿先生と同学年で一年生を受けもちました。古い教室ですので暗いため、壁面にB紙か何かはましたね。教科研究をAとBに分け、A教科では創造性を高める研究、B教科では誘発性を育てる研究をやりました。みんなの先生方の歩みが、とても着実だったので来た当時は、とてもハンデーを感じました。苦労しました。

小島(由) 今のA教科というのは、国語、社会、算数、理科の教科です。B教科はそれ以外のものです。

全職員がそれぞれ教科に入って研究をしましたが、自分の所属している教科については、たいへん深まり勉強になったのですが、他教科との交流が、なかなか困難でした。

司会 次に昭和四十七年にはいりたいと思います。この年に本校へこられた先生は、永井先生、小島史先生、加藤先生でしたね。四十七年度という、校舎第一期工事の九教室が完成して児童も教室へ入つた年です。この年の七月には、小プールが完成しました。地域環境では団地造成がどんどん進められ始めたころです。

永井 先程小川先生から本校の子どもが素直だと、お話がありました。昭和四十六年ごろを境にして、本校児童の特性、地域環境などが大きく変わつてきたのではないのでしょうか。いわゆる児童の特性が地域環境の変化に伴ない良い面、悪い面共に、はっきりしてきたと思えます。鶴一の子どもの姿として、欠点とされるもの

を挙げてみたいと思います。まず要領の良い子が、ふえてきています。と同時に、頭の方だけが良くなればよいという考え方が児童の考え方の中に強くあるようです。素材さが無くなり自己中心的な、そして打算的な面が、多くみられるように感じます。消費ブームで物をたいせつにしない。働くこともきらい。働く喜びも知らないというような、子どもの姿をみます。打算的であるということから、学級内でも協調的な、感情のうすれがみられるなど、いわゆる都市化の傾向にある児童と言いましょうか。学校、家庭両面での教育のたいせつさを、感ずるわけです。

小島(史) この学校へ来て最初、子どもたちの顔を見た時バツと感じましたが、顔色が青いですね。なんか子どもらしい健康的な明かるさが、無いということですね。同じように耐久力に乏しく、体力にも欠けているという、一面を強く感じました。

教頭 先の永井先生のお話に関連しますが、本校の児童の特性が地域環境によって、大きく変わってきたという点ですが、実は私たちのこの鶴沼地区が、とくに県教育センターの研究協力地区に指定されて、昭和四十五年から昭和四十七年までの三年間、学校課題調査を大々的におこないました。つまり団地造成地区の学校教育における地域環境調査をし、分析、考察を加えました。内容については、ここで申しませんが、これの集録は、学校に

にあります。三冊、それぞれ三年間の分冊になってます。児童の特性もこれらの調査結果をもとにして考えてみてはどうでしょうか。

(せひ一度よくみたいの声)
小島(史) 校舎のお話ですが、新しい校室と古い校室では、何かにつけて違いますね。新しい校室はほんとにいいなあと思えました。入り口の戸ひとつあけるにしてもなか／＼あかないと、「コノボロメー」という気になりますからね。

加藤 昭和四十七年度は校舎の第二期工事がされていましたが、校舎が建築中なので、職員室から自分の教室へ行くまでに五分かかるんですね。教室へ来るのに、はるばる来るといって感じて、遠いなあと思えました。けやきの木のことでありますが、冬雪の積もっている姿、とても美しいと感じました。

福井 今でもそうですが、職員室から教室のある新校舎までマイカーで行かれる先生がいますが、こういうことは、全国でも珍しいのではないですか。(爆笑)

浜田 小プールのことですが、どうもあれでは遊ぶには良いかもしれませんが、指導には適さないと思いますが、**小島(史)** 私も学級の子どもを、小プールへ入れましたが、小さいですね。一学級でも無理なんです。ましてや二学級となったら、何をしているのかわかりませぬ。水に馴れるという目的ではなく、あれは避暑ですね。

やはり造るなら私たちの希望も、とりいれてほしいです。もうひとつ小プールのことですが、入る所の一段下に、黄色い所がありますね。子どもがあそこを走るので、とても滑りやすいですね。あれは危険ですね。

浜田 四十七年度当時、私はガラス係りをしていたのですが、毎日よくガラスが割れて、日曜日まで出てきて入れたことがあります。

小島(由) 古い校舎の屋根裏に鳩が巣をつくり、その糞がよく落ちて困ったことがあります。給食時間に配膳された子どもの食べ物の中に糞が落ちて、結局食べられなかったこともありました。また屋根裏を歩く鳩の足音がやかましかったり、ダニがわいたりしたこともあつて、ずいぶん困ったもんです。

司会 そのころの学校行事について……。
白木 児童活動は今と違って、活動が固定してあります。児童会で自発的に全校的に行事をつくって、運営するということは無かったようです。今年児童会が計画したドッジボール大会のような行事は、ほとんどやってもいいじゃないですか。

浜田 年々いろいろの行事がふえていることは、確かです。

清水 何か行事にふり回されて、じつくり子どもたちと、とり組みたいと思うんですが……。

小川 忙しい忙しいと言いながら、毎日が過ぎるので

すが、あとからふり返っても自分の心にガシツと受けとめられる何も無いんですね。何かを一貫性をもってやり直し、「やったなあ」と心に残るものがほしいです。

司会 左高先生、失礼していましたが、先生も昭和四十七年に本校赴任でしたね。何か一言……。

左高 いやあどうも。学校行事には関係しませんが、私の苦心談を一席……。私は忘れもしない昭和三十年に鶴沼第二小学校に赴任したんです。ところがその年、鶴二小は、校舎全面改築ということで、分散授業という形がとられたのです。その年度の九月から三月までの期間です。私は鶴二小校下の五、六年四学級の児童を、毎日毎日引率して、電車でこの鶴沼第一小学校まで通ったというわけです。借りた教室は今の一年生のいる校舎四教室です。大きな学校でそりゃ肩身の狭い思いをしました。これが私と本校の出合いなんです。このころは、鶴沼中学校が下の大きい運動場、小学校が上の小さい運動場を使っていました。さて、今度は昭和四十七年度の話です。私は本校教育に偉大な業績があり、そのすばらしさは認めます。しかし旧来のろう襲は破らなければいけないと思えます。新しい意見、そして広い度量をもって事に対処したいのです。「こう言われたからよろしい。」でなく、納得のいく教育行政、また教育経営が必要だと思えます。

司会 では昭和四十八年度、つまり本年度本校へこら

れた先生のお声を聞かせてください。福井先生、清水先生、矢島先生、私の四名ですね。清水先生、矢島先生は新採用教諭として、人生最初の赴任校ですが、印象はどうですか。

清水 生まれて始めて先生になりましたが、先生って何となくある仕事だと思っただけです。そして全校研究授業をやりましたが、ほんとにいい勉強になりました。無我夢中でやったような気がします。しかし子どもはほんとに可愛いんですね。ひとりひとりをだいにしたいと思っただけです。

矢島 養護教諭として一年やってきましたが、何もわからず苦労しました。前にもお話ししましたが、県保健大会があつていろいろ勉強できたこと、本校の児童体位の実態がわかったことなど、保健活動のいいことが身をもってわかつたような気がします。

司会 二人の先生、ほんとに今年一年ご苦労さんでした。新採用という名まえはやがて消えますが、来年度からは、初任者教員として、いろいろの研修があります。今年の経験を生かして、更に飛躍してください。さて、福井先生、どうですか。

福井 今年の歩みの中で校内音楽会はとても良かったと思います。みんなの先生がとても意欲的で、楽しくできました。ですが第三期校舎建築の途上で、音楽室もなく悪い環境でした。これからも音楽する心を育てて、い

きたいなあと思います。

司会 さて、昭和四十四年に本校に赴任された先生から四十八年にこられた先生のお話を、いろいろお聞きしましたが、最後に本校の「けやき」についてどんなことを思ってみえますか、お聞かせください。

小島(由) そうですね。けやきは今でこそ、おおらかさを感じますが、四十五年当時はけやきの落ち葉の清掃でにくたらしいほどでした。朝の掃除のえらかったことと

いつたら……。

白木 けやきについての先生方の観方、考え方は先生ひとりひとりによって、ずい分違うと思いますが、今私は六年生を受けもつていて、子どもの作文などをよくみると、以前からずっと、この学校にいる子と、新しく転校して来た子とは感じ方、考え方が違いますね。だから、このけやきをもつと教育的な場に入れて感じ方なり考え方を指導したらどうでしょうか。たとえば、三年生で校下の歴史や、学校の歴史が出てきますね。そのよくな時けやきを結びつけて学習させるんです。そうすると卒業するころにけやきに対して、愛着をもつようになると思っていますね。それから今年新しくみえた先生方は白紙の状態ですが、このけやきをどう観ておられるかということですね。ちょっと聞きたいですが……。

清水 そうですね。正直に言っても印象らしいものは感じません。大きいなあということばかりですが、

けやきの存在する意味とか、価値はそれほど感じません。浜田 先の掃除のことで思うのですが、けやきを切つてしまつた方が……と思つたこともありませぬ。

白木 私はね、精神的な面で子どもの教育の中に、生かされる面があると思つた。ひとりの子が作文の中でけやきといふしよに、歩いてきた六年間について書いていました。何年生の時に落ち葉ひろいしたとか、何年生の時に写生をしたとか……。何か、心の中に生きていくもの、残されていくものがあると思つた。指導の仕方ひとつだけではなく何かがあると思つた。鶴一の象徴とするなら、何か教育の面に生かしたいね。

小島(史) 私が子どもに大きな木を、図画の時間にかかせたことがあります。みんながけやきをかくのです。一年生の時にかいたけやきが、印象に残っているのですね。あのけやきの木の下で遊んだり、落ち葉をひろつたりしたことも印象的に残っているのでは。とにかくボリュームのある絵がかけてましたね。知らないうちに、毎日けやきと生活しているうちに、子どもの心の中にとけこんでいつているのではないのでしょうか。だからいい絵ができたのだと思つた。

清水 鶴沼第一小の象徴としてのけやきであるという考え方、とらえ方が少しわかつたような気がします。自分なりに教育の中に、とり入れていきたいと思つた。白木 あのけやきは途中で折れたそうですね。栗木さ

んから聞いたんですが、折れたけやきが枝分かれして今のようになつたんだそうですね。このけやきを鶴一小のシンボルだとするなら、ひとりひとりの先生がこのけやきをどう受けとめているのか、ほかの機会に「けやき談話」をすると思つた。

福井 子どもに聞きますと、けやきのいちばん美しいときは、秋よりもやはり春の新芽の出たときが、いいと言つておられます。こういう新芽が出たときをとらえて、けやきは生きていくのだという感じ方、考え方を指導するといひたいですね。もうひとつの考え方が、古い物をたいせつにするという考え方、しかもそれが生き続けている尊さを、教えたいですね。宝物というところから

矢島 私はけやきをそう大きいとは感じていませんね。小学校のときに、大きないちぢょうの木がありましたので、……。

司会 「けやき談話」はつきませんが、またの機会と

いうことにしまして、最後に何か一言……。
外山 現在の子どもは、物をたいせつにしません。この間も学級で筆箱調べをしたんですが、一年生からずっと続けて使っている子が、二名しかいないんです。もう少し物をたいせつにする子にしたいですね。

清水 古い校舎は年代を、刻みつけているというもののやはりすき間風ははいるし、子どもが可愛想ですね。

白木 鶴一 小の名物にホコリがあります。むかしはホコリが教室や廊下に、はいらないように防風林のようにホコリよけの、はさをつくったそうです。ホコリが多いせいか目を患う児童も多かったそうです。ホコリのひどさは、机の上に字が書けたくらいだったそうです。

左高 最後にひとつ。百周年記念事業、そして記念誌の発行、歴史と伝統を語る重要な文化財です。しかし、いつまでも過去にとらわれずこれを契機として、新しく飛躍してほしいと思います。過去、現在、将来と続く過程の中で、現実の姿をしっかりと見極め、明日の創造へとたくましく進もうではありませんか。

司会 どうもありがとうございました。



名残り惜しい旧校舎



昭和48年度職員

歴代校長

第1代	村瀬 太乙	明治六、二、明七、二月
第2代	戸田幸一郎	明七、三、
第3代	田口(不明)	不明
第4代	目崎(不明)	不明
第5代	後藤 益江	明八、九、明九、
第6代	村上 義典	明九、不明
第7代	吉田 需	不明
第8代	村上吉太郎	明十三、三、明二十四、
第9代	佐藤 讓	明二十四、不明
第10代	岩田繁三郎	不明
第11代	大橋 茂樹	不明
第12代	木村 庫三	不明
第13代	大熊 正直	明二十六、三、明二十七、七月
第14代	横江 秀	明二十七、八、明二十九、三月
第15代	戸倉清五郎	明二十九、四、明三十、四月
第16代	長尾 敏之	明三十、五、明三十二、三月
第17代	野口 泰三	明三十二、四、明三十三、八月
第18代	伊藤幸太郎	明三十三、九、明四十、一月
第19代	山岡 清	明四十、二、大元、九月
第20代	秋山勘次郎	大元、十、大七、二月
第21代	棚橋重五郎	大七、三、大十四、三月

第22代	宮脇 五蔵	大十四、四、	昭六、二月
第23代	野村 宗男	昭六、三、	昭十五、二月
第24代	桑原 精一	昭十五、三、	昭十八、二月
第25代	勝野 貞一	昭十八、三、	昭二十四、三月
第26代	服部 俊郎	昭二十四、四、	昭三十、三月
第27代	松野 義人	昭三十、四、	昭三十二、三月
第28代	堀 重教	昭三十二、四、	昭三十六、三月
第29代	野村 義一	昭三十六、四、	昭三十八、三月
第30代	宮脇 健市	昭三十八、四、	昭四十、三月
第31代	下川 錦一	昭四十、四、	昭四十五、三月
第32代	北折 範治	昭四十五、四、	昭四十七、三月
第33代	西垣 勇造	昭四十七、四、	

本校勤務の旧職員名簿

(勤務年次順・明治二十四年以降)

加藤 信夫	明二十四、四、	大十四、三、
牧田五百太郎	明二十七、五、	明二八、十二、
林 吉次郎	明二十七、五、	明三十、十、
板津錠太郎	明二十七、五、	明三十二、四、
箕浦 かつ	不明	明二十八、七、
大竹吉三郎	明二十八、八、	明三十一、七、

松尾古登子 昭二〇、三、
 松本ゆり子 昭二〇、三、
 林 礼子 昭二〇、三、
 山田 恒夫 昭二〇、三、
 今泉 智里 昭二〇、三、
 足立 幸子 昭二〇、三、
 永井 松子 昭二〇、三、
 佐藤 弘 昭二〇、四、
 石田 信行 昭二〇、九、
 松波 勇 昭二〇、九、
 高木 典生 昭二〇、九、
 丹羽 登 昭二一、三、
 早川 真恵 昭二一、三、
 小島 政信 昭二一、三、
 長瀬 君子 昭二一、三、
 大木 秀子 昭二一、三、
 岩井よしゑ 昭二二、三、
 今井 英子 昭二二、五、
 山田 守夫 昭二二、三、
 坂井 一男 昭二二、九、
 横山 博 昭二二、三、
 薰田 源市 昭二二、三、
 高木 敬子 昭二二、三、
 水野のみゑ 昭二二、三、

早川 一子 昭二三、三、
 山本 とみ 昭二三、四、
 勝野 幸子 昭二三、六、
 若尾やす子 昭二三、一、
 真鍋 幸光 昭二四、三、
 藤懸 範夫 昭二四、三、
 田中 重子 昭二四、三、
 足立 里子 昭二四、三、
 酒向 タミ 昭二五、三、
 松田 清 昭二五、八、
 左高 幸男 昭二五、三、
 栗原美智子 昭二五、三、
 丸山とし子 昭二五、五、
 加納 恒子 昭二六、八、
 木俣重太郎 昭二六、四、
 高井 茂 昭二六、四、
 鷺崎 和磨 昭二六、八、
 後藤 義光 昭二六、十一、
 田中 いく 昭二七、四、
 古沢 正雄 昭二七、四、
 多和田久義 昭二七、四、
 足立 秀成 昭二七、四、
 五島 峻良 昭二七、四、
 奥村美智子 昭二七、四、

関谷 愛子 昭十三、三、
 平島 展子 昭十三、三、
 三輪 毅 昭十三、三、
 小川 孝一 昭十三、四、
 板頭 嘉一 昭十四、三、
 井上 米子 昭十四、三、
 下川 たき 昭十四、三、
 足立 義高 昭十四、三、
 小川ふさゑ 昭十三、三、
 黒井宮之丞 昭十三、十二、
 後藤 公平 昭十四、一、
 内藤 秀雲 昭十四、五、
 沢田嘉一郎 昭十五、三、
 高田 豊 昭十五、三、
 永井 勝親 昭十五、三、
 永田 諶子 昭十五、四、
 梅田 ふさ 昭十五、九、
 市橋 光夫 昭十六、三、
 山田 正夫 昭十六、三、
 角 ツヤ子 昭十六、三、
 永井 勝親 昭十六、三、
 平島 展子 昭十五、五、
 服部 和海 昭十七、三、
 林 千代子 昭十七、三、

浅野さち子 昭十七、三、
 浦島 正 昭十七、四、
 小島 保丸 昭十七、九、
 日比野 修 昭十七、九、
 三鴨やゑ子 昭十七、一九、
 田口 千鶴 昭十八、一、
 可児亮三郎 昭十八、三、
 猿渡 澤子 昭十八、三、
 中村 敏子 昭十八、三、
 有元 定子 昭十八、三、
 組田 文子 昭十八、三、
 伊藤 六郎 昭十八、三、
 岡部 基則 昭十八、一三、
 野村 義一 昭十九、三、
 坪内 二郎 昭十九、三、
 大栗 潔子 昭十九、三、
 松原 恭子 昭十九、三、
 五島千紗子 昭十九、三、
 有賀 文枝 昭十九、三、
 小野木 弘 昭十九、三、
 関谷 光子 昭十九、三、
 小森 四郎 昭十九、八、
 大岩富美代 昭十九、一〇、
 岩水 一枝 昭二〇、三、



三善一之進



佐伯真佐夫



若山 太郎



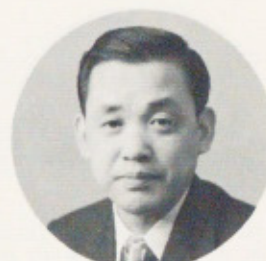
横山 重夫



本田 忠夫



大竹 太郎



松岡 勇



後藤 幸夫



佐々木賢昭



稲垣 好夫



武藤 健一

育友会 (PTA) の歩み

昭和二十二年、当時の軍政部民間情報教育課の勧告により、両親と教師の会 (PTA) が作られた。その趣旨は、児童が健やかに育って行くためには、学校と家庭、それに社会が、その教育の責任を分け合い、力を合わせて、児童の幸せのために努力していく必要を強調しています。

また、そうした会の結成により、保護者自体、研修を重ね、生活水準の向上や社会改良などの意義をねらったものである。

しかし、PTAの誕生した二十二年から二十五年頃までは、所謂、戦後の混乱期で、PTAの在り方も明確な方向づけがなく、学校の設備や催しの寄附や後援をすることが、主な機能、行事であって、本当の意味で子どもたちのためや、会員の研修とは程遠いものであった。従って、本校のPTA活動においても、この頃の記録は、残されておらず、詳細なことは不明である。

昭和二十六年度

- 会長 伊藤 一美
- 副会長 土屋 明義 梅田 ふさ

会計 木俣重太郎

昭和二十七年

- 会長 伊藤 一美
- 副会長 土屋 明義
- 会計 渡辺 義雄

昭和二十八年

- 会長 土屋 明義
- 副会長 加藤 孝介
- 会計 渡辺 義雄

昭和二十九年

- 会長 加藤 吼洲
- 副会長 加藤 孝介
- 会計 渡辺 義雄

昭和三十年

- 会長 加藤 吼洲
- 副会長 板津 勉

阿部 えつ

會計 渡辺 義雄

昭和三十一年度

會長 坂井 久二
副會長 板津 勉
會計 渡辺 義雄
恒川 佳子

昭和三十一年度

會長 板津 勉
副會長 広江 藤衛
會計 渡辺 義雄
栗木 清子

昭和三十三年度

會長 堀尾 義一
副會長 広江 藤衛
會計 渡辺 義雄
岡崎 弥生

昭和三十四年度

會長 阿部 博一
副會長 橋本 鉄夫
岩城 潔子

會計 渡辺 義雄

昭和三十五年度

會長 広江 藤衛
副會長 土屋利男
會計 渡辺 義雄
岩城 潔子

昭和三十六年度

會長 土屋 利男
副會長 林 定雄
會計 今井 留吉
岩城 潔子

昭和三十七年度

會長 土屋 利男
副會長 林 定雄
會計 今井 留吉
横山 房子

昭和三十八年度

會長 三善一之進
副會長 伊藤 育男

會計 今井 富也

イ、年間総予算 四一五、二八五円

ロ、会員数 六一〇人

ハ、事業計画

四月 定期総会、歓送迎会、学級委員選出

五月 地区子ども会 学級別研究会

六月 学級別研究会

七月 父親教室 プール監視協力 危険箇所を標識取付

八月 ラジオ体操の会 地区独自の子ども会

学校整備奉仕作業 廃品回収

九月 臨時総会

十月 運動会参加 学事視察

十一月 児童文庫寄附金募金 学級別研究会 廃品回収

十二月 年末反省懇親会

一月 学級別研究会

二月 地区委員選出 学級別研究会

三月 新役員選出 定期総会 年度末反省者懇親会

ニ、学校整備奉仕作業 庭の池づくり、防火用水金網はり、焼却窯移動、遊具の移動、倉舎の修理 体育館

下水の破損修理、運動場ならし等



遊具移動の作業

ホ、学事視察

1 期日 昭和三十八年十月十二日

2 目的 優秀な他校の施設 図書館

教育の優秀校の見学と併せて役員、親和を図り、社会見学を兼ねて

実施

3 目的 大阪府豊中市野田小見学、宝塚遊園地入園

4 乗物 貸切バス(濃飛バスkk) 二台(六十八乗)

5 会員 五百円(個人負担分)

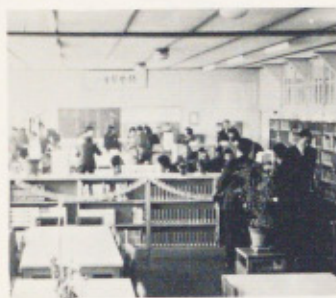
昭和三十九年度

會長 佐伯真佐夫
副會長 板津 鈴一
會計 今井 富也

イ、年間総予算 三四六、四六七円
ロ、会員数 五七三人

ハ、事業計画 (昭和三十八年度とはほぼ同じ)
 ニ、勤労奉仕作業体育館の油ふき、校庭の整地、ガラス窓ふき、等
 ホ、学事視察

1 期日 昭和三十九年十月六日(火)
 2 目的 知能の低い子どもだけの収容の特殊学校の見学と併せて役員の親和を図り、社会見学と兼ねて実施
 3 目的地 滋賀県近江学園 (ヘルスセンター) 浜大津
 4 乗物 貸切バス (岐阜観光バスkk) 二台 大小型
 5 会費 五百円 (個人負担分)
 ヘ、第十四回岐阜県学校図書館教育研究大会
 1 期日 昭和三十九年十一月二十七日(金)
 2 日程 午前分科会 午後総会並に講演
 3 諸係 午前八時より午後四時三十分まで分担の係に分かれて仕事をする。



岐阜県学校図書館
 教育研究大会



ト、学年別研究会 (六年生PTA会記録より)

1 期日 昭和三十九年一月三十日
 2 出席者数 七六八
 3 司会者 佐藤一雄
 4 協議内容
 (1) 卒業寄附について ストープ二台
 (2) 謝恩会について 父兄児童参加し会食
 (3) 担任への謝恩会について 卒業式終了後
 (4) 三学期の重点目標について担任先生より説明を聞く (加藤先生)
 (5) その他

昭和四十年年度

会 長 若山 太郎
 副会長 勝野喜久男 清水 京子
 会 計 勝野喜久男
 イ、年間総予算 四五四八七円
 ロ、会員数 五五六円
 ハ、事業計画
 四月 組織完了、役員総会、学級総会、学級委員選出。
 五月 定期総会 地区子ども会 学年別研究会
 六月 学級別研究会

七月

父親教室 廃品回収
 生活相談と補導 プール監視

八月

プール監視 ラジオ体操の会

九月

講演会 学事視察

十月

運動会参加 廃品回収

十一月

問題別分科研究会 勤労奉仕

十二月

地区子ども会 廃品回収 生活相談と補導



たのしい運動会

一月

学年別研究会

二月

新地区委員選出

三月

新旧役員総会、定期総会 年度末懇親会

ニ、勤労奉仕

ストープ用まき割り 取こわし校舎後の整理

ホ、学事視察

1 期日

昭和四十年九月六日(月)

2 目的

下呂整肢学園慰問と下呂小学校の優秀な施設の見学と併せて役員の親和を図り、社会見学を兼ねて実施

3 目的地

下呂整肢学園、下呂小学校、他

4 乗物

国鉄高山線

5 会費

五百円 (個人負担分)

ヘ、企画委員会

1 期日 昭和四十年九月六日 午後七時より
 2 出席者 全員 (三十名)
 3 協議内容
 (1) 廃品回収 (第二回) の収入報告と使途の件
 ・ 合計額三六九七三円
 ・ 使途については学校一任とする
 (2) 学校給食のミルクの件
 ・ 混乳が六七円、全乳九四円の増 来年度よりどちらにするかアンケートをとる
 ・ 結果を見て企画委員会で検討する。
 (3) 精神薄弱児育成会の件
 ・ 単位はPTAで加入し五百円負担する。
 (4) 総会の件
 ・ 十二月上旬に授業参観、講演会を兼ね開く
 (5) 学級委員会の開催の件
 ・ 学年委員長の要望により十一日(土)の午後に開催する。
 (6) 勤労奉仕作業の件
 ・ 地区委員は大体半数ずつ二日に分割する
 ・ 地区委員長が各地区につき責任をもつ
 ・ 校舎跡の整理 薪割りと作り
 (7) 運動会の件
 ・ 学校の企画に従い出来るだけ協力し参加す

- (8) スリッパの件
 - ・PTAとしてスリッパの備えつけを今後検討する。
 - (9) 次期企画委員会の件
 - ・九月二十五日(土) 一時三十分より
- ト、夏休み地区子ども会行事

町南	ラジオ体操 教育映画会	町西	ラジオ体操 社会見学
場羽	ラジオ体操 中劇場映画	町東	ラジオ体操 七夕まつり
木伊	ラジオ体操 海水浴	寺積	ラジオ体操 音楽会
小伊	ラジオ体操 計画中	市場古	ラジオ体操 計画中

昭和四十一年度

- 会長 若山 太郎
- 副会長 鈴木 文美 大竹美佐子
- 会計 大竹美佐子
- イ、年間総予算 四六八八六〇円
- ロ、会員数 五七五人
- ハ、事業計画
- 四月 組織完了 定期総会 歓迎迎会

- 1 期日 昭和四十一年七月十四日(木)
 - 2 目的 優良読書グループ活動視察と親子20分間読書の進め方を学んでくる。
 - 3 目的地 揖斐川町北方小学校
 - 4 乗物 マイクロバス
 - 5 会費 委員会活動費(昼食代は個人負担)
- ト、両親学級
- 1 日時 九月十一日(日) 午後一時二十分より
 - 2 日程・授業参観 各学級へ四十五分間
 - ・ 鼓笛実演 本校クラブ 二十分間
 - ・ 講演 二時間二十分
 - ・ 演題 家庭教育の諸問題
 - ・ 講師 市社会教育課長 堀先生
 - ・ 夏休み作品展見学
 - ・ 体育館展示 自由時に見学

昭和四十二年度

- 会長 横山 重夫
- 副会長 土屋 卓夫 勝野ます子
- 会計 土屋 卓夫
- イ、年間総予算 四四四、五四九円
- ロ、会員数 五六〇人
- ハ、事業計画



親子読書会

- 五月 廃品回収 地区子ども会、学年懇談会
- 六月 学級懇談会
- 七月 勤労奉仕、廃品回収、父親学級、個人懇談会
- 八月 プール監視、ラジオ体操会、地区子ども会
- 九月 勤労奉仕、両親学級と講演会
- 十月 学事視察 運動会参加
- 十一月 廃品回収、学級懇談会
- 十二月 臨時総会、学年懇談会
- 一月 学級懇談会
- 二月 廃品回収、個別懇談会、新地区委員選出
- 三月 定期総会 年末反省会
- ニ、勤労奉仕 砂の運搬を中心とする運動場の整地
- ホ、学事視察
- 1 期日 昭和四十一年十月十二日(水)
- 2 目的 社会見学と役員の親和を図るため実施
- 3 目的地 琵琶湖大橋、ロタン展、高雄パーク、嵐山
- 4 乗物 貸切バス 二台
- 5 会費 五百円(個人負担分)
- ハ、けやき文庫委員視察
- 四月 組織完了
- 五月 定期総会、地区子ども会、廃品回収
- 六月 学年懇談会
- 七月 廃品回収、父親学級、給食試食会
- 八月 勤労奉仕、プール監視、ラジオ体操の会
- 九月 球技大会(ソフト・ドッチボール)
- 十月 両親学級と講演会
- 十一月 廃品回収、運動会参加、学事視察
- 十二月 学級懇談会、読書サークル研究会
- 一月 学年懇談会、読書サークル研究会
- 二月 学級懇談会
- 三月 廃品回収、定期総会、回覧図書反省会
- ニ、勤労奉仕 ストープ薪つくり
- ホ、学事視察
- 1 期日 昭和四十二年十月十日(体育の日)
- 2 目的 ビアノ、オルガン製作所を見学すると共に委員の親和を図るため実施
- 3 目的地 河合楽器前坂工場(ビアノ) 同新井工場(オルガン)



ストープの薪つくり

- 4 乗物 貸切バス 二台
- 5 会費 五百円(個人負担分)

- へ、夏休み球技大会
 - 1 期日 八月十二日(土) 十三日(日)
 - 2 種目 男(ソフトボール)女(ドッチボール)
 - 3 方法 地区対抗、トーナメント
 - ソフトボール 五回まで延長は二回まで
 - ドッチボール 前後半とも七分で休憩五分
- 4 対象 五、六年男女で選手とする。

昭和四十三年度

- 会長 本田 忠夫
- 副会長 松岡 武 佐々木賢韶
- 会計 林 智恵子
- イ、年間総予算 四四七二〇七円
- ロ、会員数 五六一人
- ハ、事業計画(昭和四十二年度とほぼ同じ)
- ニ、勤労奉仕 鉄棒移動、交通コーナー整地、除草
- ホ、学事視察
 - 1 期日 昭和四十三年七月五日(金)
 - 2 目的 夏休み中に学校で交通コーナーを見学しPTAとして協力する上に役立てる。
- 3 目的地 羽島市中央小学校

チ、交通安全地区懇談会

- 1 内容 子どもの安全(交通事故を防ぐ)を守るにはどうしたらよいか。
 - 2 方法 警察官、学校、職員、市議員PTA役員が地区へ出張して、午後七時～九時まで、地区の問題を解決するための懇談会を開催。
- 昭和四十四年
- 会長 大竹 太郎
 - 副会長 阿部 豊司 横山 哲弘
 - 会計 長岡 美智子
 - イ、年間総予算 五〇六、九五四円
 - ロ、会員数 六四〇人
 - ハ、事業計画
 - 4 月 組織完了
 - 5 月 定期総会、地区子ども会、パン牛乳工場見学 廃品回収
 - 6 月 交通教室(自転車の安全な乗り方)
 - 7 月 地区懇談会、自転車点検、救急法講習、廃品回収、父視学級
 - 8 月 ラジオ体操会、球技大会、勤労奉仕、プール監視
 - 9 月 学級懇談会、学事視察
 - 10 月 運動会参加、読書タークル研究、廃品回収
 - 11 月 両親学級と講演会、交通教室、映画、給食

- 4 乗物 自家用車利用 車の出せる方に依頼
- 5 会費 会費で支払う

- へ、自転車点検
 - 1 期日 七月十五日(月) 繰替休業日
 - 2 協力 鶴沼地区自転車業者、八名の方
 - 3 方法(1)時間と地区を指定し、各所で実施する。(2)学校で配られた点検カードを持って集ます。(3)親と子が一諸に点検場へ来る。(4)合格完了車には④のシールをはりつける。
- ト、交通コーナー設置特志寄付

収入	
特志寄付金	1,474,900
支出	
負担金	607,000
交通コーナ	650,142
・屋根	269,592
・庭	80,750
・庭切	27,000
・新設	45,700
・放	118,600
・自	59,000
・物	22,000
・機	27,500
・車	75,000
・置	100,000
・設	42,758



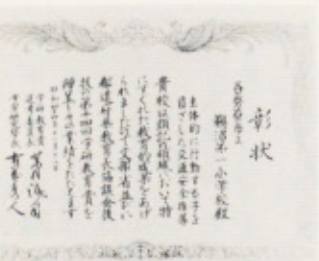
交通安全懇談会



表彰状

試食会

- 十二月 年末年始補導、廃品回収
- 一月 学年懇談会、読書サークル研究会
- 二月 学級懇談会
- 三月 地区子ども会、年末反省会、廃品回収
- ニ、勤労奉仕、各学級ガラスふき
- ホ、ストーブ購入
 - 1 台数二十八台(寄贈六台・購入二十二台)
 - 2 経費(1)ストーブ購入費 六〇四、五六〇円
 - (2)電気工事費 一九、六〇〇円
 - (3)煙突修理取付費 一五、八四〇円
- へ、市バレーボール大会(第一回)
 - 1 期日 十月十日(体育の日)
 - 2 場所 那加中グラウンド
 - 3 チーム 男女混成(女子五人以上) 九人制
 - 4 成績 第三位



表彰状

- ト、生け花クラブ
 - 1 期日 毎月第一、第四土曜日
 - 2 会費 毎月五百円(花代を含む)
 - 3 時間 午後一時～三時
 - 4 講師 阿部豊司(副会長)
 - 5 その他 剣山、花器、ハサミ
- チ、文部大臣表彰

昭和四十五年度

- 会長 松岡 勇
 副会長 山田 正吾 阿部 庄吉
 会計 沢野すみ子
 イ、年間総予算 六三二、五四〇円
 ロ、会員数 六七五人
 ハ、事業計画（昭和四十四年度ほぼ同じ）
 ニ、市民体育大会（体育の日）
 ・男子 ソフトボール（準優勝）
 ・女子 バレーボール（優勝）



昭和四十六年度

- 会長 後藤 幸夫
 副会長 阿部 庄吉 山田 静一
 会計 堀尾 富美子
 イ、年間総予算 七五〇、〇〇〇円
 ロ、会員数 七〇〇人



水難救助講習会

- 四月 計画立案、定期総会、横断旗分配、クラブ充
 五月 学年懇談会、地区子ども会、図書回覧、給食
 試食会、廃品回収、南舎南窓金網張り
 六月 父親学級と講演会、パン牛乳工場見学
 七月 学級懇談会、危険場所総点
 検（地区毎）水難救助講習会
 廃品回収、プール監視
 九月 ラジオ体操会、球技大会
 読書会、自転車点検、勤労奉
 仕、プール監視、読書会
 九月 運動会参加、学事視察、廃
 品回収
 十月 市大会（バレー、ソフト）参加
 十一月 両親学級と講演会、校内清掃（ガラスふき）
 十二月 学年懇談会、年末年始の補導、廃品回収
 一月 献本運動
 二月 学級懇談会、読書会

- 三月 定期総会、地区子ども会、年間反省会
 ニ、勤労奉仕、プールサイドのセメントはり、校庭の
 樹木枝切り、校庭の除草
 ホ、PTA部落対抗球技会

- 1 期日 七月二十五日（日）
 2 種目 男子 ソフトボール 女子 バレーボール
 3 方法 部落一チーム、トーナメント方式
 4 成績 男子(1) 羽場チーム
 女子(1) 東町チーム

- ヘ、コーラス部
 (1) 十二月練習日 二回 十一日(土)、十八日(土)
 (2) 場所 四の一小鳥学級教室（二階東端）
 (3) 時間 一時五十分～三時
 (4) 内容 既習曲の復習、テープの吹き込み、新曲を
 歌う
 (5) その他 楽譜を全部持ってくる。

昭和四十七年度

- 会長 佐々木賢韶
 副会長 稲垣 好夫 武藤 健一
 会計 黒井 茂子
 イ、年間総予算 八二四、五一八円
 ロ、会員数 七八〇人

- ハ、事業計画（昭和四十六年度とほぼ同じ）
 ニ、勤労奉仕 南舎けやき枝打ち、プール周辺の草か
 り渡り廊下のブロック整理
 ホ、PTA部落対抗球技会

- 1 期日 八月六日（日）
 2 種目 男子 ソフトボール
 女子 ドッチボール
 3 方法 ソフト 九人で五分
 戦
 ドッチ 十人で五分
 の二回
 4 成績 男子 鶴沼第一小学
 校教員チーム
 女子 羽場チーム



ヘ、鯉即売会

- 1 期日 六月二十五日
 2 鯉数 約三五〇匹
 3 売上げ金 四九、七三〇円

昭和四十八年度

- 会長 稲垣 好夫
 副会長 吉田 武夫 伊神 弘

会 計 片桐 玉江

イ、年間総予算 八七五 九九四円

ロ、会員数 八五〇人

ハ、事業計画（昭和四十七年度とほぼ同じ）

但し、百年誌特別委員会を構成し、資料整理、録音

会原稿整理などの業務を行なう

ニ、勤労奉仕 タイヤ塔のひもしめ、樹木の枝うち

プール周辺の除草

ホ、地区子ども会（大伊木の場合）

1 期日 五月五日（子どもの日）午後一時より

2 場所 大伊木のお宮下の運動場

3 運動会のプログラム

一 ラジオ体操 全員 七玉とり競争 一・二

二 玉入れ 一・二 八障害物走 五・六

三 リレー 三・四 九玉入れ 三・四

四 ドリブルリレー 一・三 十キックボール 五・六

五 二人三脚 四・六 十一スプーンレース 父兄

六 パン取り 幼児 十二きば戦 四・六 男

七 十借物競争 四・六 女 三

八 十四班代表リレー 選手

九 十五風船わり 一・三

十 十六ラジオ体操 全員

ヘ、水難救助講習会 保健

1 期日 七月十六日 月

（2）場所 体育館及び和室 3 講師 自衛官（日赤指導員）

ト、廃品回収

1 日時 十二月十九日午後二時より

2 方法 (1) 地区毎に、親、子、先生で回収整理、運搬

(2) 最終は学校へ下の運動場へ

3 収益 三〇二七五円

4 使途 教育関係備品購入



がんばった廃品回収



水難救助の講習

昭和四十八年度のPTA活動

PTA会長 稲垣好夫

昭和二十二年、当時の軍政部、民間情報教育課の勧告により、両親と先生の会（PTA）が発足して以来、鶴沼第一小学校PTAも二十数年の年輪を数えるに、至りました。

今日の鶴沼第一小学校PTA活動とその組織の基礎づくりと、何年かにわたってその充実発展にご尽力、ご協力賜った諸先生、幾多の先輩の皆様には深堪なる敬意を表します。

昭和四十六年十一月、当時の後藤幸夫PTA会長を中心に歴代PTA会長、校下の区長さん方のご協議により三年後に控えた鶴沼第一小学校開校百年を記念して、いろいろな有意義な事業が企画されました。

昭和四十七年、佐々木PTA会長により、その事業の一環である百周年誌と資料館に収める、資料の收拾のスタートが切られ、具体的な事業推進の仕事が、昭和四十八年度PTAの主要な仕事として引き継がれました。

私たちは、PTA本来の活動と百周年記念事業の双方を能率的かつ計画的に運営、推進するために四月、新しい組織として、百周年記念事業推進特別委員会を作り、

委員長に武藤健一君を任命し、百周年誌の原稿収集、録音会の実施、その編集の補助等々、と教育環境整備基金作りの二つを重要な課題として、スタートしました。

本年、一年間のPTA活動の主な歩みは、次の通りです。まず五月に、岐阜県教育センターの見学と、実習を通して会員の研修をいたしました。

十月には、校下市民大運動会、教育機器の整備、西日本一の奈良県三郷中学校の研修視察、新設校、鶴沼第三小学校のPTA組織づくりの準備等々。数多くの活動を展開してきました。一方、百周年記念事業の推進には、特別委員会、地区委員長等が中心となり、六月より百周年誌の原稿集め、録音会の開催、十二月からは教育環境整備基金作り、四十九年一月に入り、原稿整理、編集作業など初期の目標を大体完遂してまいりました。

本年一年間の歩みをふり返ってみますと、百周年記念式典実施の前年度にあたり、この間、諸先生方の適切なアドバイスと役員、会員の血のにじむような努力と、ご協力でPTA活動の運営と百周年記念事業の推進を能率的、かつ計画的に進めることが、出来たものと考えています。

最後に昭和四十八年度PTA活動に、ご協力、ご助言を賜った多くの諸先生、役員、会員の皆様には厚くお礼申しあげますとともに、開校百年記念事業のすべてが滞りなく終了することを祈念し、私のことばとします。

企画委員会名簿

昭和四十六年度

会長 後藤 幸夫
副会長 阿部 庄吉

委員

堀尾富美子
山田 静一
河村 京二
稲垣 好夫
永田 義孝
武藤 健一
吉田 武夫
沢野 晃
薫田 源一
山田 琢郎

山本 実
神原 勝次
横山 信夫
横山 政利
翠 宏
林 勝美
大竹 勝昭
青池 昭二

昭和四十七年度

会長 佐々木賢紹
副会長 稲垣 好夫
武藤 健一
黒井 茂子

委員

三輪つね子
浪内 敬子
小川たづ子
梅田 弘子
片桐 玉江

阿部 重信
吉田 武夫
清水 一朗
伊藤 毅
梅田 吾郎

武藤 素
松本 正二
林 登
加藤 昭浩
岡部 寛

昭和四十八年度

会長 稲垣 好夫
副会長 吉田 武夫

委員

浅野 豊
片桐 玉江
武藤 義博
小川たづ子
榊間 晴枝
北折 茂
樫田 光義
梶田 和子
武藤 健一

伊藤 忠臣
大葉十三子
林 承天
武藤 孝子
天池 玲子
阿部 増男
永田 健
沢野すみ子
板津 敏子

狐塚 保男
小林 信子
岡田 玄吾
鈴木 富江
鈴木二三男

昭和四十九年度

会長 武藤 健一
副会長 薫田 栄三
伊藤 幸男
小川たづ子

委員

安東 熙太
兼田 三男
森川 晃
長谷川正男
阿部 直康
加藤 救夫

伊藤 鋭二
清水 節子
鈴木 吉彦
神尾 武
小林 直澄
高橋 満子

阿部 金満
今井 静夫
伊藤 信義
川上 絹代
伊藤 弘

林 喜美子
阿部 重信
坂井 光子
林 好有
所 琢磨



夕暮富士

鵜沼の歩み

石田 幸彦

各務原台地ができあがったのは、今から約五〜六万年もの遠い昔であると言われています。

この台地は、東西七軒、南北二軒にわたる段丘で、その約三分の一が鵜沼です。その昔は、東海湖という湖底であったものが地球の地殻変動や自然の猛威の中で、次第に各務原台地となったものです。そして、各務原台地の各地から発掘される遺跡・遺物などから、一万七〜八千年もの前の氷河期の終わり頃、この地に人々が生活していたことを知ることができます。

恐らく郷土、鵜沼の地は、木曾川と各務原台地にまたがり、先人たちの生活にとって、恵まれた自然の環境であったのでしよう。

鵜沼には百二十余の古墳があり、中でも一輪山古墳・衣裳塚古墳・坊の塚古墳などは、鵜沼地区最大で最古の古墳群です。こうしたことから、鵜沼は有力な豪族の支配下において、古い時代から集落が発展してきたものと推測されます。

さて、鵜沼という地名は、各説があつて、里伝えでは、沼で鵜が餌物を漁っていたため名づけたと言われます。また、一説では、古市場・南町あたりを駅家郷といい、

その訛から採った呼称とも言います。
文献では、続日本紀や日本三大実録、和名類抄等によつて、鵜沼の名は、既に奈良時代から在ったことが知られます。

鎌倉・室町・安土・桃山時代は、この鵜沼は、美濃雜事記・濃陽志略・美濃國諸旧記などの文献から、時には交通の要所とし、時には、戦乱ゆかりの地として、数多くの記録が残されています。

また、この地には、真墨田神社・大安寺・承国寺・正法寺等々、歴史的に由緒ある寺が多く、ここを拠点として、この地の文化をたかめたものと思われまゝ。



旧中山道



中山道鵜沼宿

江戸時代には、鵜沼は、伝馬町・大伊木・南町・羽場古市場の五つでした。なかでも古市場は、かつて東山道沿いの市場として栄えてきたところだ。
慶安二年（一六四九）伝馬町が、大安寺川を境に西町東町に分かれ、また、大伊木から小伊木が分かれ七区となつて、現在の西町・東町を中心とした中山道の宿場町として栄えてきたのです。
濃州御行記は、鵜沼宿の様子を次のように記しています。

「西町八八戸のうち、宿内は二九戸で七戸が上旅籠屋、四戸が中旅籠屋、一四戸が百姓家。東町一〇八戸のうち宿内は五十戸で、このうち七戸が上旅籠屋、一八戸が中旅籠屋、二五戸が百姓家である。」と伝えていきます。

明治維新の諸改革により、過去の旅宿としての鵜沼は、明治三十年（一八九七）稲葉郡の名称となり、畑作・養蚕・養豚などを副業とした農業を中心し、商業及び自営の企業など混じえて繁栄を続けてきたのです。

幾多の変遷を経て、やがて大正時代を迎え、一九一七年、各務原に航空基地が置かれ、併せて、大正九年（一九二〇）国鉄、高山線の敷設によつて、鵜沼の地域も人口動態や産業の面でも、急激に変化を遂げ続けました。
昭和期に入り、相次ぐ戦時体制の強化と交通の便のよさ、併せて、自然の景観に恵まれる鵜沼村は、昭和十八年（一九四三）十月、町制を施行して鵜沼町となり、更に発展を続けて、昭和三十八年（一九六三）四月一日、隣接する蘇原町・稲羽町・那加町の三町と合併し、各務原市の誕生となったのです。

現在の鵜沼地区と今後の展望

その昔、「ただ青草のみ生ず」と言われた各務原台地も、今では県下、第三番目の規模を誇る都市として、飛躍的な発展を遂げ続けています。

その中でも、現在の鵜沼地区は、各務原市の約半分程度の面積を占めています。そして四至は

南端 北緯三十五度二十二分三十九秒
北端 北緯三十五度二十五分三十三秒
東端 東経百三十六度五十七分五十六秒
西端 東経百三十六度五十三分四秒
で、総面積は、三十九、五四軒米平方あります。
人口は、男子一三、九二九名。女子一四、四八五名。

開発会社名	建築予定戸数	計画年度
名鉄団地	2,410	47/3~51/12
東海土地建物(新鵜沼台団地)	1,182	47/2~49/12
大和団地	862	45/10~49/2
興人団地	1,200	47/3~49/12
丸子団地	276	44~49

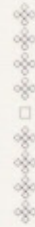
合計二八、四一四名(昭和四十八年十二月末日調査)で世帯数は、六、九六一世帯です。
しかし、鵜沼地区は現在、宅地造成が急ピッチで進んでおり、毎に人口動態は変わりつつあります。各務原市の企画課の開発計画によれば、なお、
上記のような計画とともに、鵜沼地区の開発計画として、日之出不動の奥に、三〇、八八九坪の広大な、県の交通公園の設置、芋ヶ瀬から多賀坂を経て、大安寺池にぬける観光道路の開発、羽場支所

前に福祉センターの建設四十九年四月開校の第三小学校、続いて第四、第五小学校、鵜沼第二中学校、保育園、幼稚園の増新設等々が計画されています。
このようにして、鵜沼地区は恵まれた立地条件を生かし、年毎に著しい発展を遂げ、今後は中部経済圏における主要なベツ



進む宅地造成

トタウンとして、産業、経済はもちろん、教育文化の面でも飛躍的な、限らない発展を続けることでしょう。



《付録》 鵜沼の年表

六七二 壬申の乱に村国男依が戦う
 七〇一 大宝 一 村国小依に食卦一二〇戸を賜う
 七六九 神護景雲三 鵜沼川洪水の被害復旧を朝廷へ願
 八六六 貞観 八 各務郡大領ら広野河修復について
 九二七 延長 五 延喜式が出来上る。各務駅などの
 九三〇 八 尾張と争う
 一〇〇〇 長保 二 延喜式が出来上る。各務駅などの
 一二二一 承久 三 和名類抄をまとめる。中に各務
 一三〇六 徳治 一 郡七郷の記事あり
 一三七七 永和 二 ウルマを歌に詠んだ源重之が死す
 一四一一 応永 一八 承久の変。木曾川の九つの瀬で戦
 一四一四 二二 中。中に鵜沼・板橋・池瀬あり
 史料に鵜沼・鵜沼郷の名が見ら
 鵜沼庄に空蔵庵あり
 大安寺建立
 四月四日土岐頼益死。六十四才

一四六〇 寛正 一 五月二十七日斎藤利永死
 一四六七 応仁 一 万里集九が美濃に来て鵜沼に住む
 一四九六 明応 五 船田合戦に鵜沼長福寺の勝蔵主、
 (石丸利光の姪)討死
 一五六七 永祿 一〇 池田忠倫が大安寺領五〇石安堵堵
 一五八四 大正 二 秀吉が川村惣六に木曾川・飛驒川
 の役宰配を命ず
 一六〇四 慶長 九 熊岡正次が大安寺へ諸役免許を認
 一六一二 一七 鵜沼村が尾張藩領となる
 一六三四 寛永 一 一七 犬山城主が宝積寺山を借りて立山
 とする
 一六四六 正保 三 鵜沼村火災。一八戸焼失
 一六五一 慶安 四 尾張藩が鵜沼村内の各務野に野年
 貢を課す
 一六八五 貞享 二 松尾芭蕉が鵜沼に来る。貞享五年
 一七〇八 宝永 五 鵜沼村・各務野の間に野方紛争あ
 り
 一七二一 享保 六 三ツ池新田開発
 一七二七 二 内野新田開発
 一七二八 一三 各務野に松苗を植える。古御林を
 つくる

一七四八 寛延 一 三月一九日鵜沼宿火災。本陣など
 三五軒焼失
 一七五五 宝暦 五 亥新田開発。高二四石六七一
 一七六三 一三 五月二四日大安寺川が洪水で破堤
 一七七三 明和 九 六月一七日鵜沼宿火災。二三軒焼
 失
 一七八三 天明 三 二月二六日鵜沼宿火災。本陣な
 ど二三軒を焼く
 一七八七 天明 七 六月一三日鵜沼宿火災。一九軒焼
 失
 一七九一 寛政 三 大風で鵜沼村六八軒倒潰
 一七九九 一 白牛が鵜沼宿を通過して江戸へ向
 う
 一七〇一 一三 川並番所を野村から鵜沼へ移す
 一七〇二 享和 二 六月二八日雨のため隠洞上池・遠
 い大池が切れる
 一七〇九 文化 六 一〇月一七日伊能忠敬らが鵜沼に
 泊る
 一七一六 文化 一三 大晦日、鵜沼宿火災。脇本陣など
 九軒焼失
 一七一九 文政 二 二月二三日大安寺火災
 一七二〇 三 村木初植の一〇万本を伐採する
 一七二七 一〇 六月大風雨
 一七三三 天保 四 鵜沼宿火災。二四軒焼失

一八三四 天保 五 六月大安寺川が洪水で破堤
 一八五〇 嘉永 三 八月六日大安寺川が切れる
 一八六一 文久 一 和宮東下。一〇月二七日鵜沼狂食
 一八六四 元治 一 武田耕雲齋ら西上の途、十一月二
 九日鵜沼泊
 一八六八 明治 一 征東の将兵が鵜沼を通過する
 一八六九 二 大安寺洞に池を築く
 一八七二 五 宿駅・助郷制廃止。陸運会社発足
 一八七三 六 鵜沼村が第一大区第一五小区に含
 まれる。
 一八八九 二二 七月一日市町村制実施
 一八九一 二四 一〇月二八日濃尾大地震
 一八九八 三一 鵜沼合資会社発足
 一九〇一 三四 鵜沼合資会社が鵜沼銀行と改称
 一九〇七 四〇 鵜沼裁縫専修学校・鵜沼農業補習
 学校認可
 一九一〇 四三 鵜沼村青年会創設
 一九一三 正三 鵜沼村役場改築
 一九一七 六 各務原飛行場ほぼ完成
 一九一八 七 航空第二大隊鵜沼に移駐す
 一九二一 一〇 高山線開通し鵜沼駅を設く
 一九二五 一四 犬山橋竣工
 一九二六 昭和 一五 犬山線新鵜沼まで通ずる
 一九二七 昭和 二 日本ラインが日本八景の一となる

一九二七	昭和	二	各務原球場落成
"	"	"	天皇鶴沼へ巡幸
"	"	二	各務原鉄道、二聯隊前・東鶴沼間 開通
一九三二	"	七	貞照寺建立
一九四一	"	一六	鶴沼信用購買販売利用組合設立
一九四三	"	一八	鶴沼村に町制をしく
一九四四	"	一九	鶴沼町農業会創設
一九四五	"	二〇	岐阜陸軍航空整備学校第一教育隊 が空五六三部隊となる
"	"	"	六月二二日・二六日鶴沼町西部は 激しい襲撃をうける
"	"	"	九月五日空五六三部隊解散
一九四六	"	二二	四月二五日鶴沼護国神社入魂祭
"	"	"	四月各務原開拓団創設
一九四七	"	二二	鶴沼中学校創設
一九四八	"	二三	五月鶴沼農業協同組合設立
九	"	"	八月各務原開拓農業協同組合創設
一九四九	"	二四	鶴沼第二小学校独立
一九五五	"	三〇	四月一日、鶴沼町・各務村合併・ 鶴沼町となる
"	"	"	五月初築紡績鶴沼工場竣工
一九五六	"	三一	鶴沼町を特別農村振興計画に指定
一九五八	"	三三	日本毛織岐阜工場操業開始

一九六一	昭和	三六	ライン大橋を架ける
一九六三	"	三八	鶴沼中学校が統合中学として羽場 へ移転する
一九六三	"	三八	三月三一日鶴沼町を廃町とする
"	"	"	各務原市成立
一九六四	"	"	各務原市民の歌・音頭発表会
一九六五	"	三九	岐阜車体工場、鶴沼に誘致
"	"	"	交通安全都市宣言
一九六六	"	四〇	国勢調査 人口六五、七二二人
"	"	"	鶴沼地区自動電話開通
一九六七	"	四一	青少年を守る都市宣言
"	"	四二	鶴沼中学校体育館完成
"	"	"	二代目市長、武藤嘉一氏再選され る
一九六八	"	四三	武藤市長急逝、市長告別式
"	"	"	鶴沼第一小学校交通コーナー完成
一九六九	"	四四	羽場に鶴沼支所設置
"	"	"	東消防署が羽場に完成
"	"	"	二一号線バス促進期成同盟会 開催
"	"	"	愛岐大橋開通
"	"	"	故武藤嘉一氏名誉市長第一号とな る。
"	"	"	三ッ池地内で堅穴住民跡を発見

一九七〇	昭和	四五	鶴沼東保育所完成
"	"	"	大和・丸子団地造成はじまる
一九七一	"	四六	炉畑遺跡の家屋復元工事はじまる
"	"	"	各務原高校開校
"	"	"	新鶴沼駅入口に歩道橋完成
"	"	"	鶴沼第一、第二幼稚園開園
"	"	"	各務原市人口八万人を越える
"	"	"	鶴沼第二小学校校舎落成
"	"	"	鶴沼第一小学校第一期工事了 了
一九七二	"	四七	大安寺川歩道橋完成
"	"	"	鶴沼第一小学校第二期工事中 工
"	"	"	合歓の木幼稚園開園
"	"	"	鶴沼バイパス二車線が開通
"	"	"	新鶴沼台・興人団地造成工事中 工
"	"	"	鶴沼第一小学校第二期工事了 了
"	"	"	市議会解散、大選挙区制による初 の市議選行われる。
一九七三	"	四八	鶴沼第一小学校創立百周年記念 第五代市長に平野喜八郎氏当選
"	"	"	鶴沼中学校校舎増築
"	"	"	鶴沼第二小学校校舎完成
"	"	"	鶴沼第一小学校第三期工事中 工
"	"	"	鶴沼第三小学校工事中
"	"	"	鶴沼中保育園改築工事中

- 【参考文献】
- 一、鶴沼の歴史
 - 一、濃飛両国通史
 - 一、岐阜県史稿
 - 一、美濃雑事記
 - 一、濃陽志略
 - 一、美濃国諸旧記



空安寺



正法寺



坊の塚

鵜沼小学校創立百周年記念事業委員会名簿

(昭和四十九年九月)

名誉会長	栗木 謙二	顧問	武藤 嘉文	会長	三善一之進	副会長	勝野 春市	書記會計	石田 幸彦	企画委員会	委員長	武藤 健一	副委員長	後藤 幸夫	委員	小川たづ子	山田 忠美	山田 武一	佐藤 一雄	横山 重夫	伊藤 力	石黒 三郎	阿部玉三郎	阿部 源治	佐守 勇	大竹 将夫	松岡 勇	

百周年史編集委員会	委員長	山田 武一	副委員長	横山 重夫	委員	片桐 玉江	加藤 国男	大栗 秀子	岩城 潔子	恒川 佳子	小川 博務	沢野 晃雄	渡辺 義雄	伊神 弘	山田 静一	堀尾富美子	薫田 栄三	伊藤 幸男	山口 龍	杉浦 久枝	横山 照一	大倉 常男	井戸 稔	武藤 敏夫	吉田 武夫	勝野ます子	阿部 庄吉	片桐 玉江	佐々木賢紹	黒井 茂子	五島 郁男	山田 住吉	竹山 匡一	竹山 敏春	林 平三	浅野 俊男	河村 英臣	栗木 章	伊藤 力	小川たづ子	薫田 源市	伊藤 功	梅田 ふさ	清水 京子	永田 建	大竹美佐子
-----------	-----	-------	------	-------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------

日の出不動



大安寺



貞照寺



承国寺跡



北校跡



車折神社



一里塚



狐塚石棺



呂畑遺跡

「ふぐ汁も喰へば
喰せよ菊の酒」

資料館設置委員会

委員長 山田 忠美

副委員長 佐々木賢韶

委員

土屋 卓夫
阿部 豊司
長岡美智子
兼田 三男
本田 由子
伊藤ちと子
早川 忠正
加藤 救夫

松岡 武
橋本 鉄夫
阿部 輝子
安東 照太
梶田 照子
竹中 良明
森川 晃

佐伯真佐夫
伊藤 幸男
栗木 好勝
神戸 静雄
大竹 武司
横山 一光
浅野 保
阿部 増次
三輪 栄男
薰田 隆二
大倉 一郎
伊藤 博之
浅野 仁一

環境整備委員会

委員長 松岡 勇

副委員長 稲垣 好夫

委員

林 承天
北折 茂
伊神 昭保
土屋 明義
鈴木 文美
阿部 博一
山田 正吾
板津 鈴一
坂井 永寿
加藤 定
藤井 鉦造

榎間 調治
榎田 光義
板津 新司
岡崎 弥生
横山 鉄弘
沢野すみ子
阿部 増雄
大沢 清
林 茂
伊藤 太郎

伊神 弘
薰田 栄三
堀尾 義一
阿部 えつ
勝野喜久男
横山 房子
坂井和佐子
栗木 静子
山田 静一
磯野 行男

記念事業委員会

委員長 大竹 太郎

副委員長 佐藤 一雄

委員

坂井 健一
林 貞夫
勝野 広
梶田 祐市

板津 政雄
勝野 武司
板津 新司
伊藤 忠臣

阿部 庄吉
勝野ます子
山田すみゑ
藪下 雪子
佐藤 ちゑ
勝野 節子
勝野 泰三
武藤 和子
大栗 治子
平野 芙蓉
横山ふき江
横山フサ子
小林 和子
加藤きみ子
山田 カヨ
清水 一郎
伊藤 毅

木野ちゑ子
藤田しず子
広江 初江
横山 幸江
榎原 豊子
坂井 末枝
鈴木 智子
丸山 利子
横山美代子
林 せん
大栗 和枝
坂津 芳子
山本 実
神原 勝次
横山 信夫

菅原 宮内
横山 政利
翠 宏
大竹 勝昭
浅野 豊
鈴木 静夫
保浦 叶枝
岡部 きみ
加藤 昭浩
武藤 義博
森川 茂
大竹 政光
伊藤 鋭二
長谷川正男
土屋 幸枝
松本 正二
佐伯いつゑ
梶田志ず江

梅田 吾郎
武藤 素
林 勝美
山田 琢郎
狐塚 保男
鈴木二三男
早川 キン
林 登
岡部 寛至
岡田 玄吾
干田 富三
小栗 誠一
阿部 直康
清水 節子
小山 八重
浅野のぶ子
阿部 茂子

特別委員会(昭和四十八年度)

委員長 武藤 健一
副委員長 土屋 悦郎
委員 浅野 一雄

渡辺 浪義
横山 勝義
林 幸雄
山田 清
岡部 逸雄
三浦喜久子
金井 福枝

特別委員会名簿(昭和四十九年度)

委員長 所 琢磨
副委員長 鈴木 吉彦
委員 大栗 昭二
林 長寿
山田 由弘
今井 隆子
大竹 勝昭

百周年事業の歩みと編集を終えて



武藤 健一
百周年特別
委員会委員長

以後、事業計画に基づき、記念誌掲載文の原稿依頼、資料館に展示するいろ／＼なものの収集、第一、第二校下での座談会の設営と収録など進めて来ましたが、その都度、校下のみならずには、積極的なご協力をいただき、ありがとうございます。紙上をお借りして、厚くお礼申し上げます。

さて、そうこうするうちに、いよいよ百年誌の編集作業を始めることになりました。編集という作業は、私たちには不馴れなことゆえ、心配ではありますが、やらねばならぬ仕事でした。そして今、この仕事を終えて感じたのは、「あらためて勉強できた、させていただいた」ということです。話される言葉を筆記し整理するということも、さりながら、人さまの原稿に、朱を入れるという仕事には、まさに私をして後ずさりさせるものがあります。だが、この仕事を抜くことはできません。石田教頭先生に新かなづかいを教えていただき、辞書で、当用漢字

であるかないかを調べたりなどしては、進めました。(万全を期したつもりではございますが、誤ちも出てこようかと思えます。お許しをお願いします)

そして、仕事の合間には卒業生たちが味わった、悲しみ、喜び、笑い、苦しみ等が、私たちを笑わせ、時にはほろりとさせました。分教場、分校の赤座先生の告別式での底知れぬ悲しみ、通学途中、飛んでいる飛行機に石を命中させて、飛行連隊から大目玉、出征兵士の見送り、悲しき出迎え、友の爆死、どんぐり拾い、桑の木の皮むき、等々。私は記憶の引き出しの中に、数多く、あらためてしまいこみました。なかでも「けやき」については、植えられた栗木先生をはじめとして、沢山の人が語っておられます。その思いが、鶴沼を思う心が、ひし／＼と紙面から伝わってまいりました。

南冥の島より 帰り
たたずみぬ
われ 生命あり
蟬は けやきに

最後に、その思いの結晶のようなものを、阿部元一氏の「思い出」に見出し、口をつけて出た歌を惜感ながら、タイトルとして差し上げたことを記して、筆を措きます。

「編集にたずさわって」

まる一週間、学校に通いつめ、大切な皆様の切角のご玉稿に間違いを生じては、と細心の注意を払い編集のお手伝いをしました。

ややもすれば、失いかげようとする鶴沼小の過去および現在の史実が、やがて出来あがる本誌によって、脈々として流れ、さらによき伝統と校風を築きあげることでしよう。

慣れない作業の過程を通して、鶴沼小百年の変遷を知り、「温故知新」の意義を再吟味した私です。

片桐 玉江

人間一人の過去を史的に浮き彫りにすることさえ、大変難しいことだと言われます。

まして、学校の史実とその中で展開された、鶴沼小皆様方百年の歴史をまとめるもなれば、なおさらと言えましょう。

お手伝いの過程を通して、それぞれの年代の人々が、最高の努力をなさって、理想と現実の調和をめざし、築きあげられた歴史を知ることができました。

遅く生き抜くための心の糧を得た、喜びをかみしめています。

小川 たづ子

作業を通し、鶴沼第一小学校の歴史と歩みを回顧しながら、幼き時代を、懐かしく思いみんまで楽しく協力し合えたことを、誇りに思います。

鈴木 富江

鶴沼第一小学校の百年誌の編集の一員に、加えさせていただきます、身に余るものがあります。

編集のお仕事に携わり、大変な中にもとても、楽しく過ごさせていただき、百年の年輪の、一コマ／＼を知ることが出来ました。

鶴沼第一小の飛躍的な発展を祈念しつつ……。

小林 信子

百年誌の編集のお手伝いの初日、校長室に入るなり、膨大な資料の山に、「私のような者が出るかしらん。」と不安になり、一瞬身がかたくなる思いでした。

いろ／＼な説明を聞き、その後、原稿の清書、割り付け等、今まで経験したこととは、けた違いの内容に、驚きながらも、鶴沼小の伝記と歴史を知り、この仕事がいかに有意義なものであるかを知りました。恐らく、私の終生忘れられない貴重な経験であったものと、考えています。よき機会に恵まれたことを、しあわせに思っております。

大竹 くみ子

鶴沼小百年誌出版にあたり、その仕事の一部を分担させていただき、この鶴沼小の歴史のページを駆けながらその変遷のうちに展開された数々の、人生模様には、深い驚きと感動を覚えました。また、大きなけやき、古い校舎、近代的な鉄筋校舎、鶴沼へ移住し、子どもも四年間お世話になりました。この記念すべき百年誌の出版にあたって、鶴一小のます／＼の発展を祈りつつ……。

三浦 喜久子

輝かしい鶴沼小百年誌づくりの仕事に仲間入りさせていただき、この伝統ある鶴一小で、私たちの子どもが教育を受け、正しい人間として、社会に巣立ってくれることのできる喜びをかくしきれない者です。

編集の一部に携わって得がたきものを学び、喜びに堪えません。

阿部 貞子

伝統ある鶴沼小学校百周年目の歴史の中に、旧師・旧友の母校愛のじみ出ていることを知り、一生懸命情熱を燃やしてお手伝いさせていただきました。

この書物が刊行されることは、とても嬉しいことです。

梶田 和子

実際仕事をお手伝いして、編集の難しさを知りました。

諸般の事情から実質的に編集にかかったのは、昨年十一月であった。

眼前にそそり立つ絶望を見る思いの中で、推敲、ことの軽重繁簡を見極める暇もない。また記述の正確さを期すためには、月日の正常なテンポは確実に消

えてはいったが、その期間はあまりにも短く、草稿即印刷と直通したため、粗漏の感ひとしお深い。恥じる次第である。

しかし、どうかすると消え去ろうとする本校の歴史と伝統が、本誌によっていくらかでも後世に、伝われば望外の幸せである。

せっかくご寄稿、資料提供をいただきながら、その趣旨を充分いかし得なかったことを、深く詫げるものである。

鶴一小 教頭 石田 幸彦



編集の一コマ

編集後記



山田 武一
山 田 百周年誌編集
委員会委員長

山田 武一

由緒ある鶴沼の宿場町の一角に、新々義校が誕生して
から既に百余の年輪を数えることができます。

創立百周年を迎え、その記念事業がいろ／＼計画され
その一つとして、一世紀にわたる春夏秋冬を歩み来て、
今日に至った本校の輝やかしい歴史と伝統、その間、こ
の学園で学んだ多くの人達の足跡などを、後世に伝え残
したいとの念願から、百年誌編集の事業が計画されまし
た。

幸いにして、資料の収集や編集の具体的な方法につい
ては、栗木謙二先生の懇切なご指導を受けることができ
ました。

編集委員会で種々協議され、実際に原稿、資料の収集
や編集の仕事に取りかかったのは昨年十月、以後学校
の諸先生方の熱心なお骨折りと、PTA役員の皆さんの
連日にわたる涙ぐましいまでの奉仕によって、ようやく
ここに完成したものであります。

内容につきましては、頭初精選し、校史を中心にと考
えましたが、予想以上の多くの方々から玉稿が寄せられ、
その結果整理がむづかしく、従ってそれを大切に、で
きるだけ平易にして、多くの人に親しんで読み、見ても
らえる記念誌をと心掛けました。

内容粗漏、不備な箇所も多いと思いますが、ご寛怒く
ださい。

おわりに、本誌刊行にあたって終始苦勞をわち合っ
てくださった皆さん、それに良心的な印刷をしていただ
いた浅野印刷会社に対し、心からお礼申しあげます。

委員会の編集作業風景

編集の一コマ



昭和四十九年八月一日 印刷
昭和四十九年八月十日 発行

鶴沼小百年

鶴沼小創立百周年記念出版

◎編集発行

鶴沼小創立百周年記念事業百周年誌
編集委員会

◎印刷所

浅野印刷株式会社
〒100 東京都千代田区千代田 1-1-1
TEL 03-5561-1111

非売品

各務原市図書館蔵書

1500



各務原市図書館



112123724